



校長通信

令和3年度 5号 令和3年5月24日

和歌山市立河北中学校 校長 戸川定昭

近畿地方が梅雨入りし、1週間あまりが過ぎました。平年より約3週間早く、観測史上1番早い梅雨入りだそうです。梅雨前線が活発になり、風雨の強い日もありました。気象情報をこまめにチェックし、特別警報、暴風警報、大雨警報のいずれかが発表されているときは、登校せず自宅待機させてください。



雨の日の登下校は、視界が悪く、道路も滑りやすくなるなど、危険度が更に増します。学校でも注意喚起していますが、各ご家庭でも、ご指導方よろしくお願ひします。

《新聞を無料配布していただきます》

株式会社和歌山新報社様のご厚意で、今週から各学級2部ずつ「わかやま新報」を無料で配布していただくことになりました。中学生に新聞に慣れ親しんでもらおうというキャンペーンの一貫だそうです。「わかやま新報」と言えば、和歌山の地方紙で、地元和歌山の情報が満載です。また、スポーツや文化の行事など、地元の中学生在が取り上げられることも多く、本当に身近な新聞です。5月19日版では、本校の軟式野球部の県営紀三井寺球場で開催した、紅白試合を掲載していただきました。誰もが、新聞でヒーロー、ヒロインになるチャンスがある。そんなことを感じさせてくれる新聞です。ちなみに、私も約10年前、一面トップで掲載してもらいました。当時、職場や中学・高校の頃の友人、親戚など、話題沸騰でした。



インターネットでたくさんの情報を入手出来る時代ですが、紙の新聞の良さも、実感してほしいと思います。新聞を読むことで文章の読解力向上や作文力向上につながると思います。この機会に、地方紙だけでなく全国紙にも興味をもって読んでくれるようになったら、なお良いと思います。

《いくつになっても修行！》

今号、最後の話題は私事で恐縮ですが、5月23日に開催された国体剣道成年男子の和歌山県予選に私が出場したお話をします。国体の剣道競技は、各都道府県代表による団体戦で行います。5人で編成するチームは、年齢で決められていて、その内訳は、先鋒(18歳以上25歳未満)、次鋒(25歳以上35歳未満)、中堅(35歳以上45歳未満)、副将(45歳以上55歳未満)、大将(55歳以上)となります。

56歳の私は、大将の部の予選に出場しました。1回戦不戦勝で、2回戦、相手はかつて実業団チームで活躍した強豪です。お互い有効打突がなく、延長戦へ。その延長戦でも勝負がつかず、再延長戦に突入しました。相手の手元が上がった隙について、私が思い切った胴を打ったところ、かわされて面を打たれ敗退しました。

新型コロナウイルス感染症対策で、剣道は面に透明のシールドを装着し、かつ、鼻まですっぽりカバーするマスクを着用して試合をします。途中、呼吸が苦しくて、くじけそうになりましたが、最後まで全力を尽くしました。この試合で、自分の弱点が確認できたので、また日々の稽古に生かして行きたいと思います。いくつになっても、修行です。